

広報ひらつか

—号外—

昭和54年3月31日／神奈川県平塚市役所発行／編集・企画室秘書広報課／
毎月15日／81,000部／全世界配布（一部5円）／昭和31年10月3日 第三種郵便物認可 郵便番号254

浅間町9番1号
電話(23)1111-代表



ふれあいを大切にするまち!

リズムある生活を……

● 昨年十月三十一日経済企画庁が発表した昭和五十三年度国民生活白書の中で、「家族とか地域社会といった身近な生活の中の生きがい、ゆとりが欠けていることに気づき、「心」の充実を真剣に考え始めている」と、分析しています。確かに「物」は豊かになりました。戦後の貧しさ、苦しさは語り草としてしか若者の耳に響いてこない昨今です。昭和二十年代とは生活の苦しさの度合いがあまりにも違いすぎるということでしょう。この「物」の豊かさへの代償として心の問題が私たちの前に大きく立ちはだかつてきました。

● 「何が満ち足りない」、何かをしなければ、そうした焦りの気持がからだのどこかで息づいて離れない毎日ともいえましょう。生きがい論はこうした中で生まれ、職場に、家庭に、地域にと広がっていきました。では、何を生きがいに、となりますと千差万別です。したがって、これに行政としてどう取り組んだらよいのか、未知の分野があまりにも多いといえます。行政水準の高さを判断する基準は定かではありませんが、無形の要素が多い心の面は、なおのこと数量化がむずかしいといえましょう。

● といって腕をこまぬいてばかりもいられません。そこで、仮称新平塚計画。の中でもこの問題を取り上げましたが、都市、人間、社会、生きがい、心と、こう並べたててきますと、この組み合わせ、解きほぐしには、市民自体、市と市民が共に協力し、手を出し合う姿が必要だということがわかります。県内では県西、湘南にその生活のリズムを求めているという結果がでています。残されている多くの自然、心はぐくむふるさとのにおい、そうしたものをこの地に感じるのでしょうか。

● 平塚はこうありたい、こうあるべきだという都市像をつくりあげるのには、相当に長い時間、多くの忍耐を求めながら積み上げていかなければなりません。平塚のよさを生かし、共に肩を寄せ合い、助け合って生きていきたいものです。自然を愛し心ふれあう明るく住みよみみんなのまちひらつかを築くためにも！

む



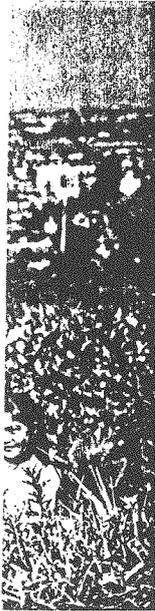
各市でコミュニティづくりが盛んです。「個人」より「個人」を中心とした生活が続いてきた反省からでしょうが、その具体的な解き



緑化まつり 郷土平塚を緑豊かなうらおいのあるまちにと、緑と花の祭典「緑化まつり」も今年で6年目となる。植木市・苗木・黒土の配布と多彩で、昨年は19万人の人出でにぎわった。



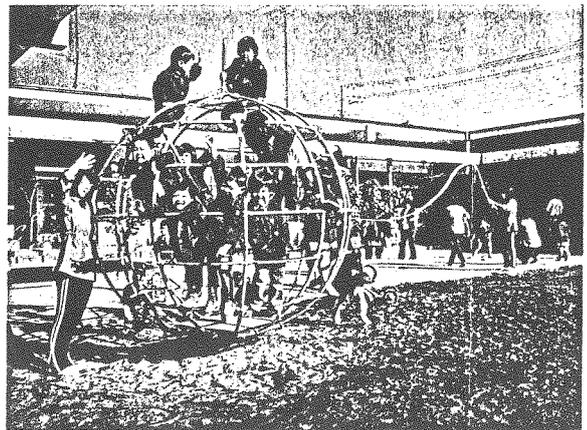
公民館まつり 公民館は各種の日常的学習や交流の場として38万人の利用者を集めている。何といても楽しいのは公民館まつり。展示や発表会等の他に、焼そばやおでんなどのコーナーもでる。



避難訓練 グラグラッ……ときたらどうするか。駿河湾大地震震説以来不安は覆いかくせない。いざというときに備えるためには、ふだんからの心構えと日ごろの訓練が大切。



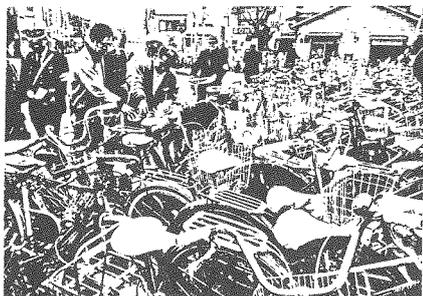
ごみ対策を考えると、観光地や公共の場所のごみ問題を見捨てておくわけには「うっかり」といった軽い気持ちで、空き缶や紙くずを捨てていく。そこで始められたのは自分たちの手で自治会のみならず、市長を囲んで表情も明るい。



保育所の充実 児童福祉施設としては、25世帯入る母子寮と、市立10私立14の保育所(2354人)がある。しかし、「子供を預けて働きたい」という希望者は年々増え、増設が望まれている。一元気な園児たち



七夕まつりは、開催前に梅雨明けなど、好天続きの5日間で、入るなど最高だった。



自転車の整理 ただいま駅周辺は自転車のこう水。駅南口は、花水地区のみなさんが日を決めて整理しておられるが、置く人はいつも気をつけよう。



防犯パトサイクル 自転車で防犯パトロールをするのは防犯協会旭支部婦人防犯部のみなさん。「こんには」と気軽に話しかけられるのがなにより強み。会話のある街ひらつかである。

よりよき隣人と共に歩む

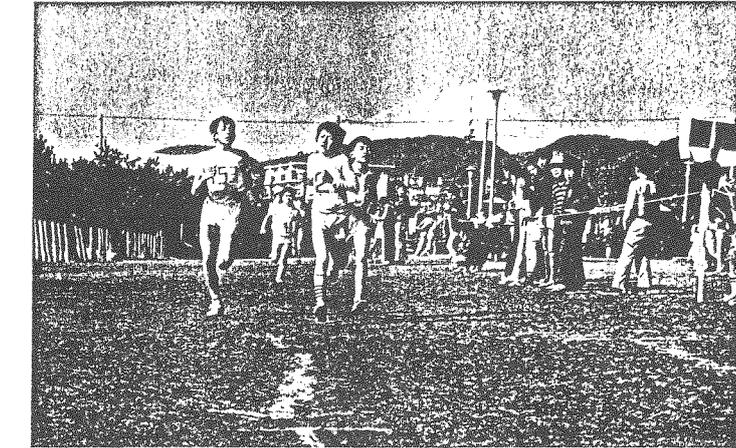
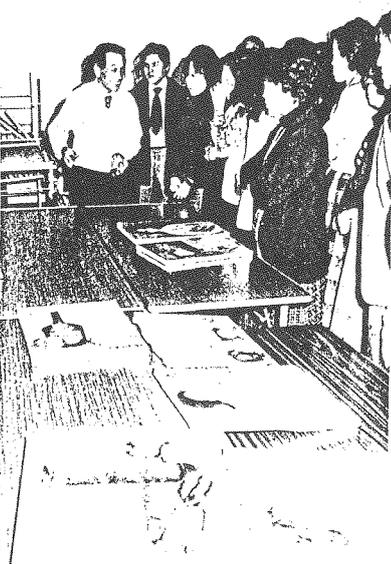


市民市 昨年10月市民の手で市民の祭典をと、「LOVEひらつか」を合言葉に、5回目の市民市が東海道本通りで開かれた。年々盛んになり、出店（個店）も100を超える盛況ぶりだった。



産業まつり 見附台体育館を中心にくり広げられた産業まつりは、七夕とともに市民に広く親しまれている。みつけ市や農水産物即売は、いつも黒山の人出。なかでもみこしはまつりを一層盛り上げている。

はぐくみには、まだ大分時間がかかりそうです。定時といった表現も出てまいりました。これは、住むまちへの意識度からつけられた言葉でしょうが、近所付き合い、地域社会への参加、こうしたことへの条件整備には、物・心両面で、まだまだ多くのものを補充していかななくてはならないようです。

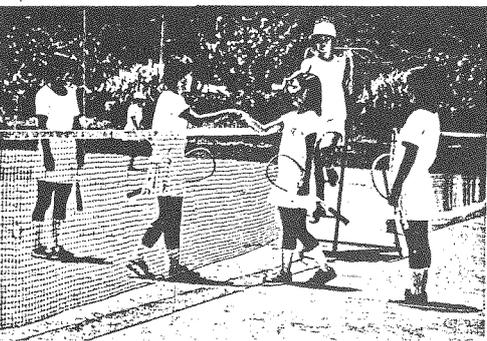


市民大学講座 現代美術、日本史、心理学、シナリオなど8コース春と秋2回開かれている。

少年マラソン大会 子供たちの健全な発達を願うと、11月から毎月1回月例マラソン大会が開かれている。よい成績だと3月の大会に出場できる。

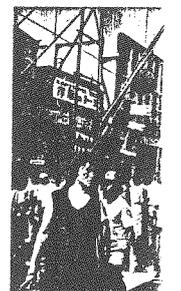


まちぐるみ大清掃 いかない、「ついで」が大清掃。公共の



子ども大会 地域ぐるみ、家族ぐるみで楽しい野外活動をすこごしようと、毎年5月3日に「子ども大会」が開かれている。ババサービステアだ。

スポーツ活動の振興 市民スポーツの熱は日増しに高まっている。今年は夜間照明もできあがった。



七夕まつり 28軒け宣言が出される出も3007人を超。

